

資料2 説教 「自分の救いの達成につとめる」

だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。（フィリピ2章12-13節）

1. いくつかの偉大な真理は、神に属するものであるが、道徳的に善か悪かというものはある程度は異教の世界にも知られている。それらの軌跡は、すべての国家において見出すことができるものである。それ故に、ある意味においては、すべての人の子に対して、「主はあなたに見せられた。人よ、何が善であるのか。公正を行い、慈しみを愛し、あなたの神の前で謙遜に歩むことである」この真理とともに、主は、「世にくるすべてのものを照らす」のである。そしてここにおいて、「律法を持たない」「書いた律法を持たない」人は、「彼ら自身に対して律法となるのである。」彼らは「律法の働き」を示す。文字ではなく、律法の本質を示すのである。つまり、石のテーブルの上に理法を書いた同じ手によって「彼らの心の中に書かれた律法」を示すのである。彼らが適切に行動しても、しなくても、「彼らの良心が証ししてくれるのである。」

2. しかし、教理には、最も重要な本性を含み、古代の聡明な異端も全く無知であり、現代の地上における最も知的な異端たちも全く知らなかった2つの柱がある。それは神の子と神の霊に関するものがある。子にとっては、自分自身を与えることは「世界の罪のためのなだめ」としての意味があり、神の霊にとっては、人々を、本来創造された神の像に似せて造りかえることにあった。聡明で学識のある人々が痛みを被った後（偉大な人、特にバラムゼー騎士）異教の著者たちとの計り知れないがらくたの中でこの真理を見つけ出したのである。この類似は非常にぼんやりしたものであり、生き生きとした想像をもって考え、見逃されるべきではない。それと共に、この類似は、ぼんやりしたものではあるが、ごくわずかの人々の論述にしか見出すことはできない。そしてこれらの人々は、何世代かの中で、とても非常に洗練された深い思考の持ち主である。一方、彼らを取りまく群衆は、哲学者よりも少し劣ったものであるが故に、滅ぶべき獣のようにこれらの最も重要な真理に対してさえ全く無知であった。

3. 確かに、これらの真理は、人類の大半である粗野な人々、またいくつかの国家の一般的な人々には、彼らが福音を知らされるまでは知られることはなかった。ここ、そこにおいてきらきらと輝きの瞬間はあるのではあるが、全地上は、義の太陽が昇り、夜の闇を消え去らせるまでは闇で覆われている。この日、高いところから泉が現れ、偉大な光が、その時までには暗闇や死の影に座していた人々にあたった。その結果、どの時代の数千もの人々も、「神は独り子を賜るほどにこの世を愛された。それはひとり子を信じる者が永遠の命を持つためである」ことを知るためであった。神の託宣によって任じられて、神は、「私

たちの中で働き、幸いな喜びによって行うことができるように」聖霊を私たちに与えられる。

4. これらのことに先立ち語られた使徒のこれらの言葉は何と驚くべきことか。「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」キリストの模範を提案しながら、使徒はキリストが彼らのために贖われた救いを保持するように勧めた。「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今は、恐れおののきながら自分の救いの達成のためにつとめなさい。」

これらの包括的な言葉において私たちは以下のことを観察します。

I. 決して忘れてはいけない言葉である偉大な真理「私たちの中で働いてくださるのは神であり、いつも従順であるように歩む」ということ

1. 第1に、決してわすれてはならない重要なことを観察しよう。「私たちの中で働いてくださるのは神であり、いつも従順であるように歩む」ということ。これらの言葉の意味は、それらを置き換えるときにより明白になる。「主はご自身の御意によりあなたがたの内に働きかけることにより行うことが出来、行っていくことも出来る。「この文節、つまり「主の御意」と「働く」をつなぐ言葉の位置は、人の功績を認めるという想像を取り去り、神にすべての働きの栄光をもたらすことになる。そうでないと、私たちにある種の誇ることをもたらし、自分の功績に対する報償と考えてしまい、私たちの中にある種の良さが存在し、私たちが為したわざにも良さが存在し、それが神を働かせたということになってしまう。しかしこの表現によってそれらの空しい欺きを取り去り、ご自身の中に、主の憐れみの恵み、純粋な恵み、無償の恵みを示すことになる。

2. これのみによって、彼は人の中で働き、意志を働かせ、行うように人を駆り立てる。この表現には2つの解釈が可能であるが、どちらも疑いなく正しいものである。第1に意志を働かせるということは、内側でおこるすべての事柄であり、行うことは、宗教の外的な事柄である。そしてこのように理解されるならば、それは、ホーリネスにおいて外的、内的に働いてくださるのは神である。第2に、意志を働かせるとは、とてもよい望みを意味し、行うことは、そこからおこってくるものがどのような結果であって行うという意味である。文章としては、神がよき望みをもたしてくださり、より望みをよき効果を得ることができるようにしてくださるという意味である。

3. 元々の用語である *qelein* と *energein* は、後者の解釈があてはまるように見える。 *Qelein*

は、意志を働かせるという意味があり、性質、言葉、行いにおけるすべてのよき望み、内的、外的なホーリネスに関連する。Energeinは行うことと関連し、主からくるすべての力、正しい気質において働くエネルギー、私たちがよき言葉を語り、よきわざを行えるように整えることを意味する。

4. 何であつても深く、継続する確信として人から高慢を隠し去ることはできない。もし私たちが、未だに受け取っていないものは持っているはずがないということを完全に知覚できるのであれば、もし私たちが最初の善である動作や最後まで行動する力が天から来ることを知覚しており、またもし私たちによき望みをくださるだけでなく、よき望みに伴い、支えて下さるのが神であるならば、あたかもそれを受け取っていないかのように、それに栄光をもたらすことができようか。そうでなければ、それは消え去ってしまうのである。ここから私たちが栄光を帰すべきお方は、主における栄光であることが理解できる。

I I ここから私たちが獲得できる改善すべき点は何か。「恐れとおののきをもって自分の救いの達成につとめる」ことである。

1. 私たちは第2点に進みたい。もし神があなたの中で働かれるならば、あなた自身の救いの達成に努めなさい。「努める」ということばは、完全に物事を行うということである。「あなた自身の」ということは、あなた自身がこれを行わなければならないことである。そうでなければそれは行われぬままおわってしまう。「あなた自身の救い」とは、救いは一般的に「先行する恵み」と名付けられたものによって始まる。そこには神を喜ばせたいという最初の願い、主の意志に従いたいというかすかな光、主に対して罪を犯してしまったという一時的な確信を含む。これらすべては命への傾向、救いのある程度の自覚、目が閉じているような無感動な心や神や神の事柄への無頓着から解放されはじめるということを含んでいる。救いはそこから悔い改めの恵みへとつながる。これは聖書的な用語で言えば「悔い改め」というものであり、自己に対する知識をもたらし、石の心からの解放をもたらすものである。その後、適切なキリスト教の救いを経験する。つまり、恵みを通して、信仰によって救われるのであるが、そこには2つの柱がある。義認と聖化である。

義認により、私たちは罪責から救われ、神の好意を受ける立場へと回復される。聖化によって、私たちは罪の力、根源から救われ、神の像を回復される。すべての経験と聖書は、この聖化が瞬間的に行われると共に過程を経て行われるものであることを示している。聖化は、私たちが神と人への聖なる、へりくだった、忍耐強い愛によって義とされた瞬間に始まる。その瞬間から、聖化は「からし根が最初は種の中でも最も小さいが、最終的には大きな枝を張り、巨木になる」ように増し続ける。そして別の瞬間に心がすべての罪から洗われ、「私たちの頭であるキリストに似るように、キリストの満ち満ちたたけにまで成長する」のである。

2. しかし、いかに私たちは救いの達成のために働くことができるか。使徒は以下のように答える。「恐れ、おののきをもって」。これは同じ表現がおこっている聖パウロの文章であり、この点に光を与えてくれるであろう。「僕たちよ、肉において支配者に従いなさ

い」つまり、現在の状態において、少したてば、僕は主人から自由になるのであるが、「恐れとおののきをもって」従うのである。これは、文字通りには解釈できない格言のようなものである。いかなる主人が、僕に対して「恐れとおののきをもって」立つことを要求することができるだろうか。以下の言葉は完全にこの意味を排除するものである。「一つ心をもって」つまり、神の摂理と意志に対して一心にという意味である。「人が喜ぶ目線ではなく、キリストの僕として、神の意志を心から行うということ」である。「何でも行うことは、神の意志として行う、そして力一杯行う」（エペソ6章5節）ということである。これらの使徒の強い表現は明白に2つのことを意味している。第1に、すべてのことは、何よりも霊に導かれた素直さにおいて行わなければならないということ、細心の注意と警戒を払い行うということである。（おそらく、より直接的には前の言葉である、**meta jobou**

恐れながらを指している）、第2に、最大限の勤勉、敏捷さ、規則正しさ、正確さをもって行うということである。それが次の言葉、「恐れおののいて」を意味するものである。

3. 私たちは、このことを、救いの達成に努める人生の物事に転換できるであろうか。同じ気質、同じ作用で、キリスト者の僕たちは、この世の主人にも仕えるのであり、他のキリスト者も天におられる主に仕えるようにしむけようではないか。第1に、霊の素直さをもって、配慮と警戒を持って、そして第2に最大限の勤勉さ、早さ、規則正しさ、正確さをもってである。

4. しかし、自分の救いを達成するために聖書が私たちにとるように命じるステップは何であろうか。預言者イザヤが私たちのとるべき第1のステップについて答えてくれる。「悪をやめ、よい行いをする」ということである。もしあなたが、神があなたの中に働き、既に与えられた恵みにおいて、すべての罪、悪魔の力からはばたくことを望み、邪悪な行いを注意深く避け、悪の現れがある場所をも避けるならば、信仰が現在の、また永遠の救いをもたすことになる。それ故に、良い行いをするように学びなさい。熱心によきわざ、敬虔の業、慈愛の業、家における祈り、そして静まって神に祈ることを務めなさい。ひそかにということが重要、そうすれば「あなたの父がそれを見ておられ、公に報いを与えてくださる。」「聖書を探求しなさい」公の礼拝で聖書のみことばに耳を傾け、個人的に読み、黙想しなさい。あらゆる機会をとらえて主の晩餐に与りなさい。「私を覚えてこれを行いなさい、そうすれば主はご自身のテーブルであなたに出会ってくださるでしょう。」神の子と会話を交わしなさい。その会話は「塩で味付けされた恵みの中で行われるべき」である。時間に都合がつけば、すべての人に対して、彼らの体と魂のために善を行いなさい。ここにおいては「あなたは堅固であり、落ち着いており、常に主のわざに励みなさい」その問いに、自分自身を否定し、日々十字架を取りなさいという言葉が実現する。神において楽しむことをもたらさないような楽しみから遠ざかりなさい。そして神に近くなれるような手段、それが十字架であれ、肉と血にとっては悲しむことであっても、そのような手段を用いなさい。キリストの血によって贖われる時に、完全にまでいたることができる。

「神が光の中におられるように光の中を歩みなさい」、あなたは「主は忠実であり正義で

ある」と証しできるのである。それによってあなたは罪を赦されるだけでなく、不義から清めることができるのである。（Iヨハネ1章9節）

I I I. 「あなたがたの中で働かれるのは神である」と「それゆえ、あなたは自分の救いの達成に努めなさい」との関係は

1. ある人々は「しかし、この文章の前者と後者の関係は何か」と問うであろう。これはむしろお互いに平坦な反対概念ではないのかという人もいるだろう。もし神が私たちのうちに働き、意志を起こさせ、行わせるならば、私たちには何が必要なのだろうか。神の働きは私たちのわがを必要とするのではないのか。否、それは私たちのわがを実践しなくてよいように、不必要とはしないのである。もし神がすべてのことを行うならば私たちにはするべき何が残っているのだろうか。
2. これは肉と血による理由づけである。初めて聞くとそれはもっともらしく聞こえる。しかしそれは、明らかになってくるように、もし私たちがそれを深く考えれば、固定されたものではない。「神も働くので、私たちも働く」ことの間には何の反対もない、そればかりか、正反対に緊密な関連があるのである。それは2点ある。第1は、神が働かれるので、あなたたちも働くことができる。第2に神は働くのであなたたちも働かなければならないのである。
3. 第1に神があなたの中で働かれるのであなたも働くことが出来る：そうでなければ、それは不可能である。もし主が働かなければあなたが自分の救いの達成のために努めることは不可能である。「人には無理である」と主は語られる、「なぜならば金持ちが神の国に入るのは不可能だから」である。そうなのである。どのような人も女性から生まれた人は誰でも、神が働かなければ不可能である。すべての人は本性的に病んでいるだけでなく、「罪と不正の中で死んだ状態にある。」神がこのような人を死人の内から復活させられなければ不可能なのである。ラザロも主が彼に命を与えなければ生き返ることはできなかった。同様に、私たちも自分の罪からでていくことや罪に対してわずかな行動を起こすことも、主が死んだ魂を呼び出さなければ不可能なのである。
4. 罪の中に居続ける者には申し開きは出来ないし、自分を造ってくださった方に対して非難することもできない。神さまのみが私たちを生き返らせることができる。というのも私たちは自分の魂を自力で再生することは出来ないからである。すべての人の魂は本性的に死んだものであるといっても、言い訳にはならない。ただの魂の状態では、神を見ることはできないのである。人が聖霊を消さない限り、神の恵みが全く欠けている者はいないのである。自然の良心と一般に呼ばれるものを全く欠いているものは存在しない。しかしこれは自然ではない。それは、適切には、先行する恵みと呼ばれるものである。どの人も、多かれ少なかれ、召しを受けなくてもある程度の先行する恵みを持っている。そして遅かれ早かれよき望みを持つ。しかし大部分の人は、根本的にそれらが実をもたらす前に、それらを窒息させてしまう。だれもが、ある程度の

光、ぼんやりした光を持っており、遅かれ、早かれ、多かれ、少なかれ、この世に生まれる人々に光りを与えるのである。そして誰も、良心に熱いアイロンで焼き印を押されなければ、自分自身の良心の光と対立する行動をとるとき、不安を感じるのである。それ故に、人は、恵みを持たないがゆえに罪を犯すのであるが、自分が持っている恵みを使用しないがために罪を犯すのである。

5. それ故、神があなたの内に働かれる限り、今や自分の救いの達成に努めることができるのである。主御自身が喜んであなたの内に、あなたの功績ではなく働かれるので、あなたは意志を働かせ、行うことができるのである。あなたにとって義を満たすことは可能なのである。「神が最初に愛してくださったので神を愛し、主の模範に従って愛において歩む」ことは可能なのである。私たちは、主の言葉が完全に真実であることを知っている。「私なしではあなたは何も出来ない」と主は語られる。一方、私たちは、どの信仰者も「キリストが私を強くしてくださなければ何もできない」ことを知っている。
6. 神が、信仰者の経験の中でこれらのものを一まとめにしてくださることを信じる。それ故に私たちはそれらをばらばらにするのではなく、取り扱わなければならない。私たちは、「あー私は何もできない」と言い、神の恵みを求めず、そこで止まってしまうような、私たちの意志的な不従順をからかうような謙遜さに気をつけなければならない。祈りなさい、もう一度考えてみなさい。あなたの語ることを考慮しなさい。私は、あなたが自分自身を誤解していることを望む。あなたが何もできないことは事実であるからだ。それ故にあなたには信仰がないのである。もしあなたが信仰を持っていないならば、みじめな状態である。あなたは救いの状態にはないのである。確かにそうではないはずである。キリストがあなたを強めて下さるのだからあなたは何かを出来るはずである。あなたの中にある恵みを燃えたたせよう。そうすれば主はあなたにさらなる恵みを与えてくれるであろう。
7. 第2に、神があなたの内で働かれるのであなたは働かなければならない。あなたは「主とともに働く働き手」でなければならない。（それらは使徒の言葉である）そうしないと主は働くのをやめられるであろう。主の恵み深い賜物が間断なく与えられる規則は以下のようなものである。「主に向かってそれはささげられるが、主からは与えられない、既に与えられている恵みを改善するわけではない。すでに持っているものを取り去られる：一般的には正反対の教理を保持していると考えられているアウグスチヌスでさえ、公正な言及をなしている。「私たち自身なくして私たちを造った方は、私たちを抜きにしては救ってくださらない」私たちが「穏当さを欠く世から救われない」限り、私たちが「信仰の良き闘いを戦わない」限り、また「永遠のいのちをつかまない」限り、「私たちがまっすぐな門から入るために奮闘するのでなければ」、「自分自身を否定し、日ごとに十字架をとるのでなければ」、「私たちの選びと召しを確かにするために利用できる手段を用いるのでなければ」私たちを救われないのであ

る。

8. 兄弟たちよ「励みなさい」「滅ぶべき肉のためではなく、永遠の命をいただけるように」私たち祝福の主と共に、異なった意味ではあるが「主が働かれるので私も働く」と語りなさい。主があなたの中で働かれるということを考察することにおいて、「よいことを行うことに飽きてはいけない」あなたに先立ち、伴い、後に従う神の恵みによって、継続的に「信仰を働かせ、希望の忍耐ともに、愛を励みなさい」常に堅固で動じず、常に主のわざに励もう。そうすれば「平和の神、羊飼いの大牧者を死からよみがえられた方（イエス）が、主の御意志を行うようにあなたを完全な者としてくださり、あなたの中で働き、主の目にとってよいと思われることを働かれる。イエス・キリストに栄光が代々にあるように！